

10年に亘る食の根幹を見直す活動

一味同心塾 中村成子館長が「オーライ! ニッポン ライフスタイル賞」受賞



子どもたちと活動する中村館長写真中央

この賞は、都市と農山漁村を往来する新たなライフスタイルの普及や定着化を図るため、日本各地で都市と農山漁村の交流の活発化に積極的に取り組む団体・個人を顕彰するものです。授賞式は、3月9日、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）で開催された「第8回オーライ!ニッポン全国大会」の席上で行われました。

中村館長は、大会を主催する、オーライ!ニッポン会議の養老孟司代表から表彰状を授与された後、約300人の来場者の前で、自身が地域

とともに10年に亘り精力的に取り組んだ、農業交流や食育活動について発表。「農」と「食」の重要性について情熱をもって語られました。

また、中村館長は発表の中で「今回の受賞は、10年の歳月をかけ少しずつ地域の皆様と活動してきた結果、『農』と『食』の文化を大切にする奥出雲町の文化が認められた結果でもあります」と話されました。

中村館長は、今後も一味同心塾を拠点として、「農と食」に関わりながら「自然といのちの大切さ」について、子どもたちに伝えていくため精力的な活動を続けていくそうです。

山陰合同銀行横田支店前に、商業集積施設「よりみちマルシェ」が開店し、4月5日、オープニングセレモニーが行われました。

この施設は、主要地方道横田多里線街路事業第3工区の完成に併せ、地元商業者が地域活性化を図る目的で建設しました。

総事業費は約5,300万円で、電気製品、事務用品、精肉、地元特産品を取り扱う4店舗と、カフェが1店舗の5店舗が出店。コミュニティスペースとバリアフリーのトイレも整備されています。



オープニングセレモニー(テープカット)の様子

横田市街地に新たな商業スポット

『よりみちマルシェ』オープン

セレモニーで、出店者代表の前田詩朗さんは「この地域を元気づけるとともに、心よく立ち寄ってもらえる町をつくろうと、みんなで話し合いを続けてきた。オープンを契機に、周辺地域の活性化を進めていきたい」とあいさつされました。



挨拶する前田代表

その後、施設オーナーの中津恵吉さん、前田代表をはじめ、関係者6人によるテープカットを行い、多くの来店者とともにオープンを祝いました。

「心やすく立ち寄ってもらえる市場(=マルシェ)」という願いを込め名付けられた「よりみちマルシェ」。住民に親しまれながら、地域の活性化につながっていくことが期待されます。



多くの人で賑わいました

高校生が医療現場を体験

三月三十日、町立奥出雲病院が将来の人材確保や高校生の職業教育支援、地域に開かれた病院づくりを目的とした「高校生の医療職場体験会」を開催し、横田高校と三刀屋高校から十六人の生徒が、医療現場で体験実習を行いました。

この日、生徒たちは、病院の白衣に着替え、食事や車椅子への移動の介助などを体験しました。



高齢患者への食事の介助をする後藤さん

新規就農者が家族経営協定を締結

平成二十三年四月以後に、町内で新規就農する三名の「家族経営協定調印式」が三月二

十四日、井上町長ら立会いのもと、役場仁多庁舎で行われました。

家族経営協定は、より良い家族農業経営のために、労働時間、報酬、休日等について文書による取り決めを行い、それぞれ自覚をもって経営に参画することを目的に締結するものです。

そして今回、農業者としての新たな一歩を踏み出すのは、露地野菜経営を行う田部孝太さん(八川)、施設花き経営を行う鎌田幸孝さん(八川)、肉用牛繁殖経営を行う和泉宏

幸さん(阿井)の三人。調印式では、三人の新規就農者から「若い農家同士で協力し、奥出雲町の農業を盛り上げたい」と決意が述べられ、井上町長からは「町内にある若い農業者の組織や農業者の皆さんと協力して農業活性化のために頑張ってください」と激励がありました。

この協定締結を機に、目指すべき農業経営の姿や環境整備について家族間や農業者の間で話し合いをし、農業経営の改善が進められることが期待されます。



横田高校生54人の仮想会社「だんだんカンパニー」町を元気にするプランを提案

横田高校二年生(類型クラス)五十四人を社員とし、奥出雲地域の活性化を考える仮想コンサル会社「だんだんカンパニー」。

平成二十二年七月の発足以後行ってきた調査内容や、それをもとに作成した地域活性化プランの報告が三月十六日、町議会に対して行われました。

最後に同カンパニー社長の佐藤勇人校長が「今日の発表はまだまだ駆け出しの内容だが、生徒たちが奥出雲町を知ってくれたことは、大きな宝となった」と、生徒たちの努力を称えました。



調印式の様子(写真前列左から和泉さん、鎌田さん、田部さん)